

ストラスブールで学んだこと

文学部 N.S

ストラスブール研修は、私にとって初めての海外経験であり、日々新しい発見や感じる
ことが多くあった。

一つは、コミュニケーションの重要性である。この研修で一番と言ってよいほど痛切に
感じたのが、自分のコミュニケーションに対する消極性である。日本にいた時は、初対面
の人と話すのが苦手という意識はあったが、人見知りという言葉に逃げ、自分から積極的
に話そうとし、自分の考えを伝えることはあまり無かった。しかし、この研修中、生まれ
育った環境が異なり、考え方も多様な外国の人々と話す上で、自分の世界を広げる人との
会話はとても重要な意味をもつと感じた。しかし、自分の意見や考えを伝えない限り、コ
ミュニケーションは途絶えてしまう。相手の話を聞くことはもちろんだが、より世界を広
げるためにも、自分から発信していくことは欠かせないことであると感じた。この研修中、
自分の伝えたいことを自由に話すことができるだけの語力が無く、とても悔しい思いをし
た。しかし、例え日本語であってもこの話題に自分の考えをもつことが出来るだろうか、
という場面にも時々遭遇した。例えば、アルザスの家庭訪問をした時、自分より年下の女
性に、日本の政治について尋ねられる場面があった。相手はフランスの政治をよく理解し
ており、かつ、それに対する自分の意見をしっかりと述べていたのに対し、自分は日本の
政治について曖昧な理解や考えを述べることしかできなかつた。これは自分のフランス語
力が乏しかったからではなく、自分が様々なことに対して何も理解や考えを持っていなか
ったことの表れである。フランスについて理解を深めることも大事だが、まずは自分の国
をしっかりと見つけて理解し、自分の考えを持つことが大事だと感じた。コミュニケーショ
ンをより発展させるために、まず様々な知識に対して理解をし、自分なりの考えを持つこ
とが重要なのではないかと感じた。

二つ目は、歴史や伝統を継承することの大切さである。ストラスブールに来てとても強
く感じたのが、この町は歴史をととても大切にしている、ということであった。ストラスブ
ールだけではなく、フランス全体がそのような国であるかもしれない。途中にあった自由
行動でパリに行ったときも、そのことを強く感じた。フランスの人々は、大人だけではなく
学生も、自分の生まれ育った国の文化や歴史、伝統に強い関心をもっていて、深く理解
していた。これは日本では珍しいことだと思う。自分の国に深い関心と理解を持つ人々が
多いからこそ、フランスの歴史や伝統を強く感じる事ができたのだと思う。ストラスブ
ールのシンボルである大聖堂をはじめ、立ち並ぶ家や建物にそういったものを強く感じた。
それらを見ていると、例えば大聖堂からは、これほどの立派なものを作り上げた人々の信
仰心の厚さがひしひしと感じられ、彫刻や絵画からは当時の人々の息遣いを感じ、家や建
物からは昔の人々の、生活を楽しむ思いが個人的には感じられた。新しいものを好み、日々
新しく成長する日本の街とは異なる雰囲気を感じた。当たり前なことだが、何百年も前か

ら人々は生きていて、今と同じように喜怒哀楽をもって生活していたのだと気づかされた。そして、歴史は繰り返されているとも感じた。何か行き詰ったり、困難な出来事に直面したら、環境は違えど現在の私たちと同じように生きてきた先人たちが遺したものに触れることで、何かヒントが見えてくるのではないか。町にある建造物はただ何も目的が無く建てられたのではなく、昔の人々がある思いをもって建てたはずである。その思いを汲み取り、現在へと活かすことが大事なのではないかと感じた。その意味でこれからもこのストラスブールの素晴らしい歴史や伝統が大事にされるべきであると思った。そして、ストラスブールだけでなく、フランスやその他の国、そして日本の歴史についてももう一度よく学習し、歴史や伝統を継承することに貢献したいという目標を持つことができた。

三つ目は、自分が常識や正しいことだと思っている事柄は、必ずしもその通りではない、ということである。この研修中、些細なことから大きなことまでたくさんの自分の考えていた常識がくつがえった。例えば、公衆トイレは滅多に無く、あったとしても有料であったり、日曜日にはどのお店も閉店していたり、というようなことである。最初はあまり受け入れがたいものだったが、だんだんと、今まで自分が考えてきた常識というものは日本国内だけのものであり、日本を出れば無くなってしまふ、ということに気づかされていった。これは制度や慣習だけに関わらず、自分の考えも当てはまらなと思う。自分が正しいと思っていた事柄が、他から見ると全く違う意見になり得るということも感じた。今まで正しいと思っていたことは、生まれ育ってきた地域の中で据え付けられた狭い考え方であり、世界を通して考えれば、絶対的に正しいという常識や制度、慣習などないのではないか。この研修を通して、考え方が柔軟になり、様々な視点から物事を考え、色々な可能性を見出すようになった。

ストラスブールで学んだことは、これからの進路や考え方に大きく影響してくると思う。ここで培ったことを思い出しながら、また新しいスタートを切りたい。